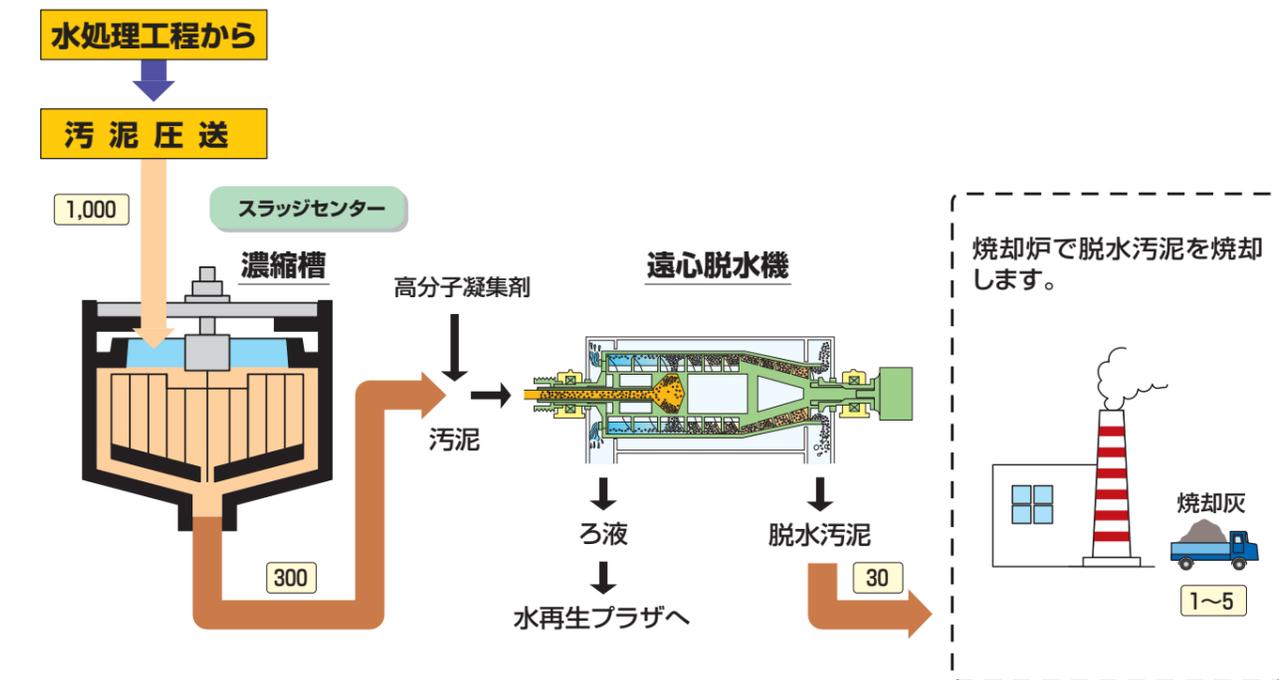
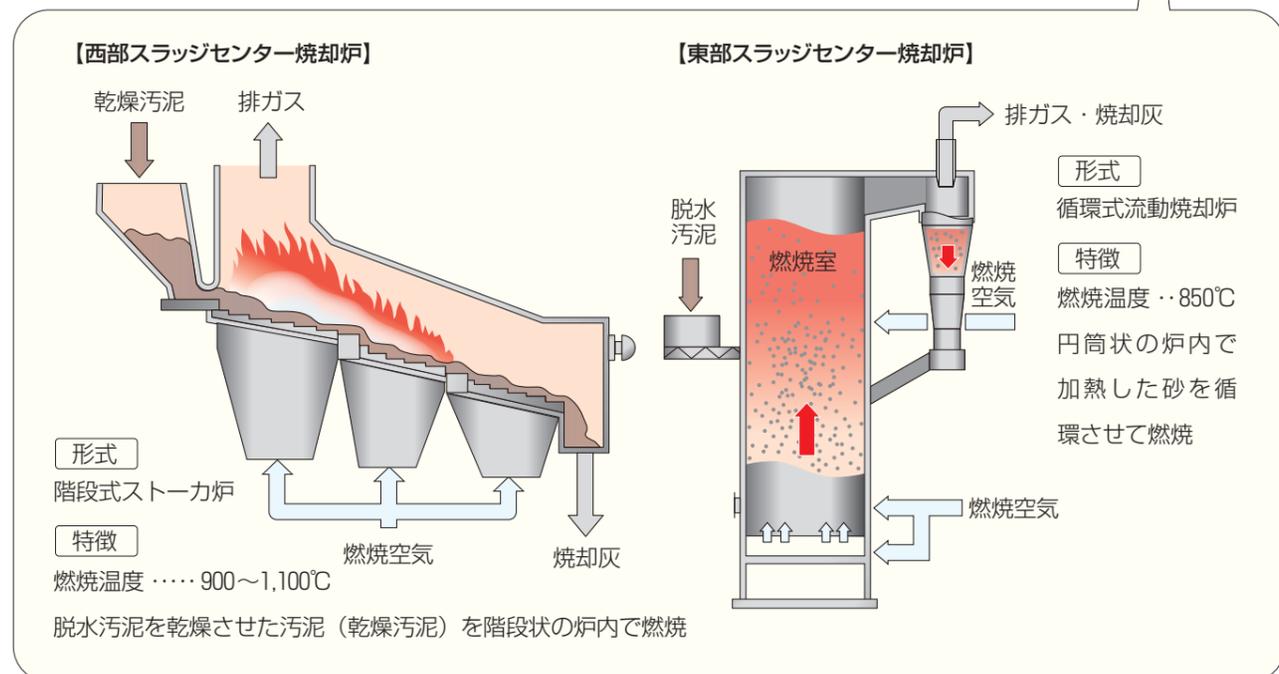


下水をきれいにする過程では、大量の汚泥が発生するため、その汚泥の処理が必要となります。汚泥は水分を多く含んでいるため、濃縮槽や脱水機を通して水分を取り除いて脱水汚泥とします。脱水汚泥の大部分は焼却して減量・安定化させ、発生した焼却灰は、建設資材などとして有効に利用しています。

汚泥処理の流れ



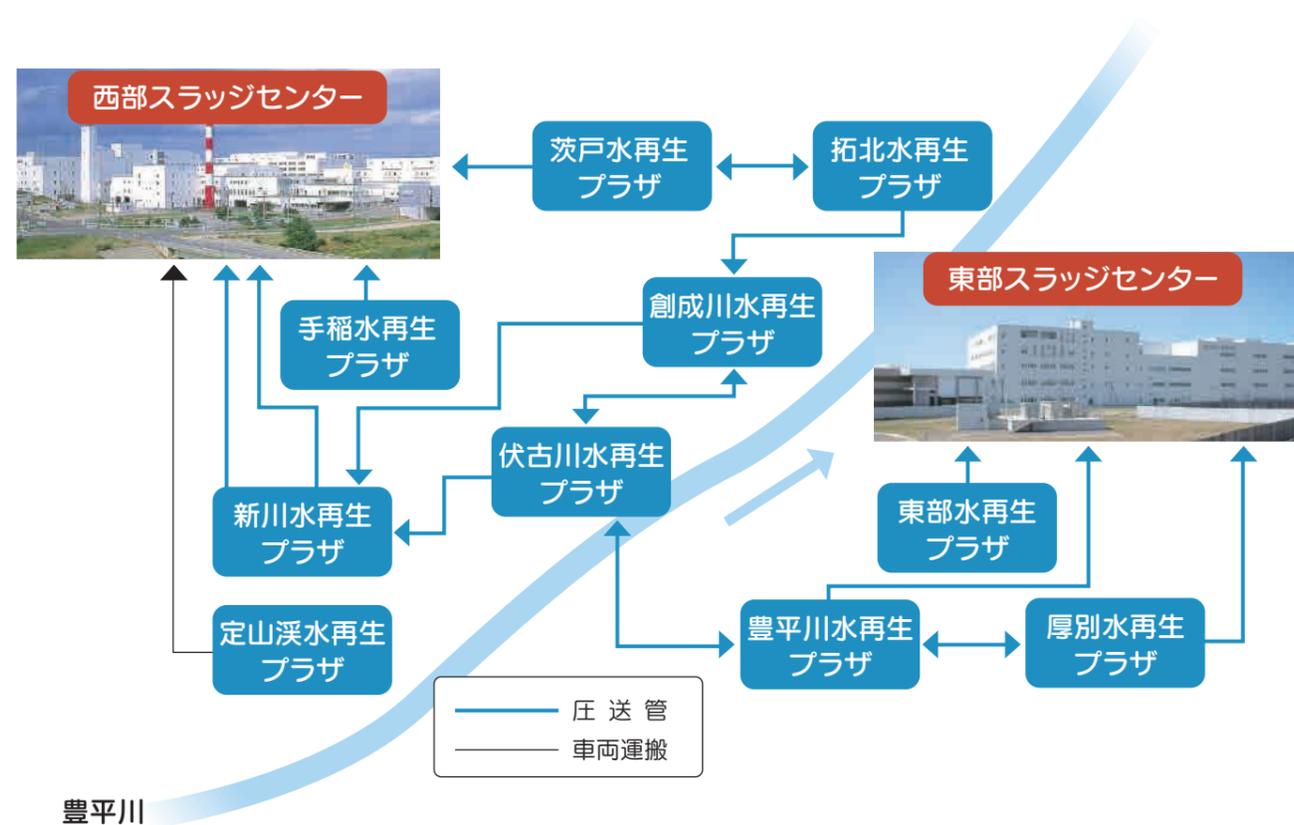
…濃縮する前の汚泥の体積を1,000としたときの、各工程後の汚泥の体積



汚泥処理の集中化

札幌市では、従来は各水再生プラザにて個別に汚泥処理を行っていましたが、効率化を図るため、現在では市内2カ所にあるスラッジセンターにおいて汚泥を集中処理しています。創成川・拓北・伏古川・茨戸・豊平川・厚別・東部・新川・手稲の各水再生プラザで発生した汚泥を地中の圧送管で東西のスラッジセンターに送り、一括して脱水・焼却しています。その結果、従来に比べて大きく処理費用・使用エネルギーを削減しています。

また、何らかの事故や災害によって一部区間で汚泥の輸送が停止しても、汚泥の処理に支障が出ないよう、汚泥圧送ルートの子条化やループ化を行っています。



Q. スラッジセンターで汚泥を集中処理することで、
どんないいことがあるの？



A. 札幌市では以前はそれぞれの水再生プラザで汚泥処理を行っていたのじゃ。ところが、水再生プラザ周辺で宅地化が進んで臭気対策が必要となったことや、更新スペースが少ないことから、東西2カ所のスラッジセンターで汚泥を集中処理することにしたのじゃ。
集中処理することで、個別での処理と比較して「維持管理費の縮減」「共通設備などの合理化や設備の大型化によるコストダウン」「使用エネルギーの削減」などたくさんのメリットがあるんじゃよ。